

10 ボウシテナガザルの前腕骨骨折治療の一例

○東野 晃典 植田 美弥 江村 綾 松谷 美絵
(横浜市立よこはま動物園)

ボウシテナガザルの右撓尺骨々折の治療を行い完治に至ったので、その治療法と治療経過について報告する。当該個体は雄 8 歳の健康個体で、前日に新しく設置した餌台に腕をぶつけることで骨折したと考えられた。骨折の状態は非開放性で撓骨は 3 片に割れていたが、尺骨は単純な横骨折であった。治療法はテナガザルの前肢を中心としたロコモーションを考慮し、完全な機能回復が期待できる骨プレートによる観血的整復法を選択した。また患部への負荷を軽減する目的で前腕部から手根部にかけてキャストリングテープにて外固定も行った。術後は運動制限のためペットケージにて飼育を行った。術後の経過は良好で患肢の運動性は特に問題はなく、感染も認めなかった。術後 30 日目で患部の良好な骨化を認めたため運動制限を解除した。獣舎内では術前とほぼ同等の運動能力を発揮し、前腕部の機能障害等は見られず良好な治癒経過を示した。